

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2590400053
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会
事業所名	グループホーム しのだ
訪問調査日	平成 21 年 6 月 3 日
評価確定日	平成 21 年 6 月 19 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2590400053
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会
事業所名	グループホーム しのだ
所在地	滋賀県近江八幡市上田町540-1 (電話) 0748-37-1540
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2F
訪問調査日	平成21年6月3日

【情報提供票より】(21年6月1日事業所記)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建(耐火構造) 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	29,100 円	
敷金	有() 円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	650 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,700 円	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	75歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	近江八幡市立総合医療センター、ヴォーリズ記念病院、神崎中央病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

八百年の伝統を持つ篠田神社に隣接したホームは純和風の木造家屋で、遠く望む八幡、安土、観音山城跡に囲まれ、長閑な田園風景に溶け込んでいる。近江八幡市の社会福祉法人ほのぼの会を経営母体とした総合的な福祉施設の中のホームで、相互の連携のもと層の厚いサービスの提供を目指している。朝から利用者の歌声があふれ、この事業所の持つ明るさが感じ取れ、職員も家族の様に溶け合い、楽しい雰囲気が醸し出されている。管理者及び全職員の真摯な取り組みの成果が如実に現れ、前回の課題項目が大幅に改善された。開設二年で軌道に乗つつある事業所の魅力は管理者、職員の理念の共有によるところが大きい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題に優先順位をつけ、重点的に取り組んだ地域との交流では自治会の季節ごとのイベントに利用者とその家族、職員も参加して交流を深めている。もう一つの大きな課題であった災害対策は、緻密なマニュアルが作成され職員とも認識の共有を図っているが、現時点では机上訓練の段階であり、6月19日に予定されている避難訓練が初めての取り組みである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	課題は向上に繋げる目標と前向きに捉え、自己評価には管理者、職員共に真剣取り組んでいる。骨子は管理者が作成し、課内会議で職員全員で検討し、課題の趣旨を共有する事で前回から大きな改善を見た。今年も前回と同じスタンスで取り組む意欲が見えた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の開催頻度も2ヶ月に1度、討議内容も充実している。出席対象者も市職員、民生児童委員、学識経験者、家族会代表、社会福祉法人理事長等々多岐に渡り、14名中欠席者は3~5名で事業所をより良くしていこうと努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が今年発足し、家族とのコミュニケーションが更に密になった。月一回のしのだ便りを送付し、便りには誕生会や日常の様子、地域の行事参加の様子がカラー写真で掲載し、更に翌月の行事予定も細かに記載されている。また、意見、苦情箱を設置している他に、月一回専門の介護相談員が2名来所している。家族アンケートでも事業所への満足度は極めて高い。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流の広がり着実に前進している。毎月一度近くの明光寺住職の法話が開催され、その事を外部の人にもチラシを配布し聴聞を働きかけている。また、事業所外に通りすがりの人が休める様にベンチを設置している。地域の人たちに認知症の理解度を高める方策を色々試している段階である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「 1.認知症が重度化しても人間としての尊厳や権利を損なわず、最後までその人らしい生き方を追求します。 2.認知症高齢者が地域と共にあることを、しっかり踏まえ地域の一員として暮らすこと目指します。」と謳い、地域密着型サービス理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングの板に掲示しており、月一度の課内会議(非常勤職員を含め全員参加)で唱和している。併せて”魅力ある「しのだ」にするための11か条”他も唱和し、理念を共有し、実践に繋げるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月一度近くのお寺の住職の法話が開催され喜ばれている。利用者の目線に合わせて季節ごとに行われるイベントに参加し、地元の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者がまず記入し、課内会議で討議し仕上げている。自己評価、外部評価のコピーは全員が持ち、管理者及び職員間の認識は統一されている。昨年度の課題解決に取り組み、地域交流を実現し、緻密な災害マニュアルを協力して作るなど、着実に成果を生み出している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。。出席対象者も多岐に渡り、14名中欠席者は3～5名位で参加率は高い。議題も多岐に亘り、自己評価、外部評価結果も議題に入っている。討議の結果やアドバイスは、運営面に活かされサービス向上に貢献している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近江八幡市の介護保険課課長が運営推進会議に出席し、質の向上に協力頂くなど、良い関係を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回”しのだ便り”を発行し、家族に郵送している。便りには来月の行事予定も記載し、周知を図っている。家族会が今年3月に発足し3ヶ月毎に開催する事を明記している。家族会の議題も多岐に亘っている。家族の来所は多い人で週一回、少ない人で月一回あり、その際利用者の状況説明を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置されているが、未だ入っていた事がない。家族アンケートからも極めて高い満足度が認められる。家族会も結成され、軌道に乗りつつある。重要事項説明書には、近江八幡市及び滋賀県の公的2機関にも、苦情申し立てが出来ることを示し、説明も行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年非常勤の職員1名が止むを得ない個人事情で退職した。利用者は、同僚の協力もあつて新たに採用された職員を好意をもって迎えている。経営母体の社会福祉法人の理解・支援も得て、異動・離職を最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉法人内での各種研修会(感染症事故防止、介護のスキルアップ等)に全員参加出来るよう又、法人外の研修に関しても案内を掲示板に張って希望者には可能な範囲で受講出来るよう助力している。さらに介護アテンド士、調理師資格も持っている。		さらに個人別育成計画を作成し、その上を目指す職員には、資格取得を支援し、総合力向上に寄与されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近江八幡市(現在4グループホーム)より広域の東近江事業者連絡協議会に入会し、2ヶ月毎に同協議会は開催され、管理者が毎回出席している。議事録は職員全員の回覧捺印後本部に提出し、周知徹底を図っている。。		時には職員の同行も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	センター方式の導入は検討中である。可能な限り事前にホームに来てもらい、他の利用者との関係作りを努めている。又、職員もフェースシート(A4で2枚に詳細に記入されている)による生活歴や趣味を把握しているので違和感無く馴染めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を親しみをもって接しているため、職員と利用者との意思疎通は図られている。また、職員は利用者から学ばせて頂いている気持ちが大切と思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に職員担当制を採用し、月1回の課内会議で気づいたことなどを出し合い、利用者の望む暮らし支援をするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とのインフォームドコンセントが取られていて、本人、家族、かかりつけ医や関係者の話し合いを基に、最終的には本人家族の希望する介護計画を作成している。計画書には家族の調印がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	頻繁に行われるモニタリングや”しのだケース記録”に詳細に個々のその日の記録を職員、夜勤者、管理者の色分けで記入し、家族にも見て貰うよう努めている。急な変化が生じたときは、家族を含めた関係者で話し合い即応した計画書を作成している。変化の必要性がない場合には3ヶ月ごとに家族の同意を得て継続している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年より医療連携体制に係わる訪問看護サービス契約を同法人と締結し、週1回以上看護師が来所している。バイタルチェックのデータは日々メール送信し、異常があれば都度来所してもらいアドバイスを受けている。かかりつけ医への受診支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者9名中8名は家族がかかりつけ医に同行。その場合、事業所より利用者の状態を詳しく書いたメモを渡し、かかりつけ医が解るようにしている。他の1名は職員が病院に同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針で、ターミナルケアまでしない方針を昨年12月より利用者の家族全員に説明し、了解印をもらっている。家族やかかりつけ医と、この方針を共有し文章化している。		「認知症が重度化しても人間としての尊厳や権利を損なわず、最後までその人らしい生き方を追求します」という素晴らしい理念に基づく方針が、実現することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報には鍵かけして保管している。また排泄時などさりげない声かけをし、入浴時も一人で入りたい人の意思を尊重し、気を配りながら見守っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌っている人、自分の指定席でテレビを見てる人、自室で古いアルバムを見ている人などそれぞれのテリトリーを作っあげている。昼食時は職員も全員揃って食事しているが、朝食は朝早い人や遅い人等、本人の状況に応じ対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、食事の準備及び後片付けを手伝っている。職員と利用者全員で楽しそうに食事をしている。調査当日の昼食は、食事補助が必要な2名は8割方を食し、7名は完食に近かった。朝食は画一的でなく、早い人は6時頃、遅い人は7時半頃と臨機応変に対処している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は2室有るが、機械設備のない浴室の為要介護の高い人は職員が入浴介助するが、他の利用者は自分で入浴を楽しむ事が出来る。2日に一度の入浴で、夏季は希望すれば毎日でも入浴が可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙、くす玉やのれん等趣味で物作りをしている利用者の作品を共用空間に展示している。誕生会の実施や、地域のイベント等に積極的に参加している。毎月発行の家族通信"しのだ便り"で家族にも報せている。美整容は50日に1度来て貰っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	数日おきの食材の購入に利用者の中で可能な方に同行を誘っている。散歩は週3日程度実施している。ドライブは不定期だが、計画に基づいて実施している。家族の協力もあり週1回程度外出出来ている利用者がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全上の理由から、止むを得ず表門と裏口のみ施錠しているが、帰宅願望のある利用者が出たときは、職員が付き添い同行するなど、行動の束縛感が生じないように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の各種マニュアル(非難経路図、消防署への通報マニュアル等々)は完備している。警備保障会社と夜間巡回警備を契約している。警備保障会社からの夜間2回の確認電話と夜間1回の見回りを行っている。ペンダントベル、非常ベルは警備会社に繋がり、テストは実施済である。避難実地訓練だけが未実施となっている。	○	6月19日実施予定である夜間想定避難訓練を是非実施を期待する。また地域の人達の協力も得られるよう日頃からの働きかけが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がチェックし、アドバイスを受けた食事内容になっており、栄養バランスよく摂取している。食事摂取量は％表示で業務日誌に、水分摂取量はcc表示で介護記録に記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、気軽に腰をかけることが出来るよう、木製ベンチを設置するなど工夫を加えている。ロビー兼食堂は2階天井まで吹き抜けで風通しも良く採光も良い。中庭も整備されて眺めも良い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室面積は11.32㎡有り、ゆったりしているので使い慣れた家具の持ち込みもあり、家族の配慮か居心地良い雰囲気作りがなされている。夜間トイレ用に座式簡易トイレを設置している。事業所の配慮で各居室は和紙製シェードランプで温もりを感じ、竹炭消臭剤が吊り下げられ爽やかさを出している。		